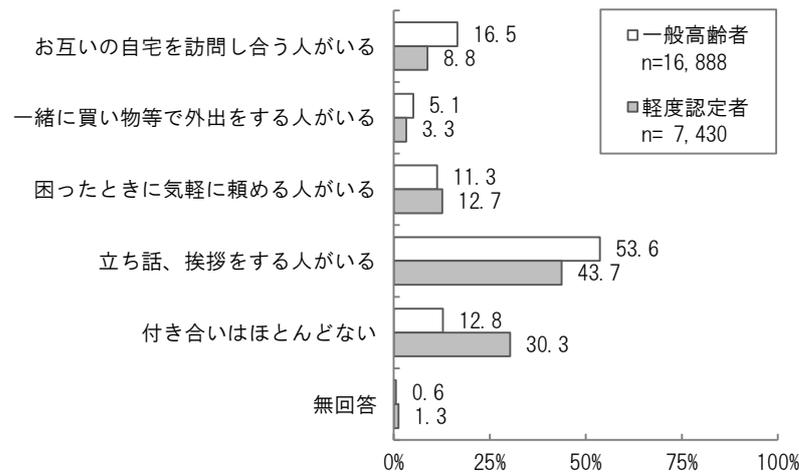


## 5 地域での活動について

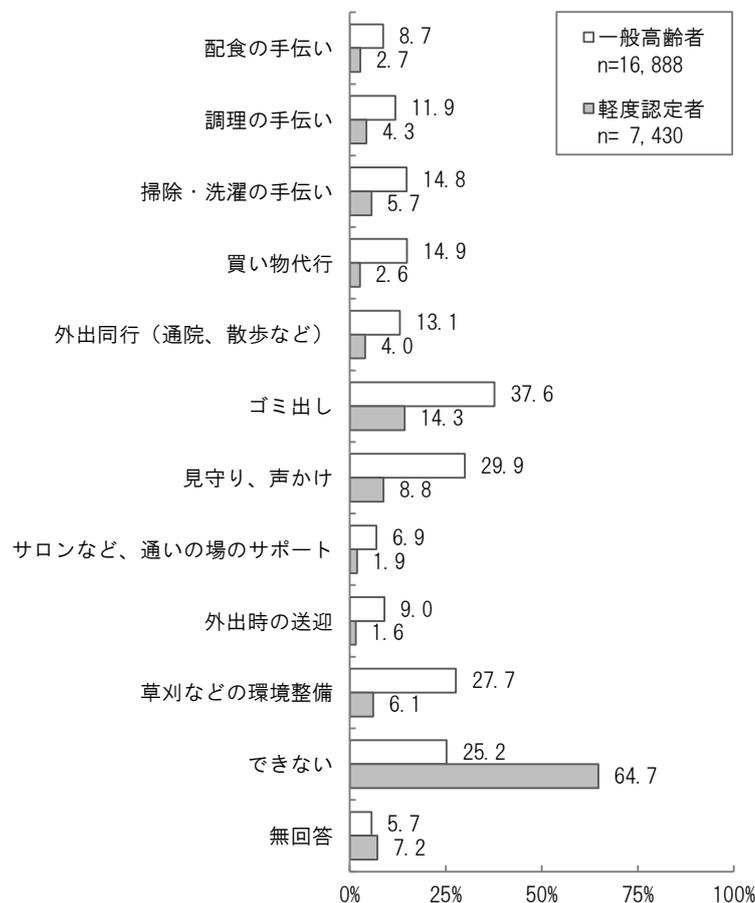
### (1) 地域の後期高齢者が支援できる生活支援サービス

- 地域の人との付き合い方について、一般高齢者・軽度認定者ともに「立ち話、挨拶をする人がある」(53.6%・43.7%) が最も高くなっています。
- 地域で出来ると思う活動をみると、一般高齢者は「ゴミ出し」(37.6%)、「見守り、声かけ」(29.9%) の順となり、軽度認定者は「ゴミ出し」(14.3%) となっていますが、「できない」(64.7%) が最も高くなっています。

問5-(1) [問5-(1)] 地域の人との付き合い方

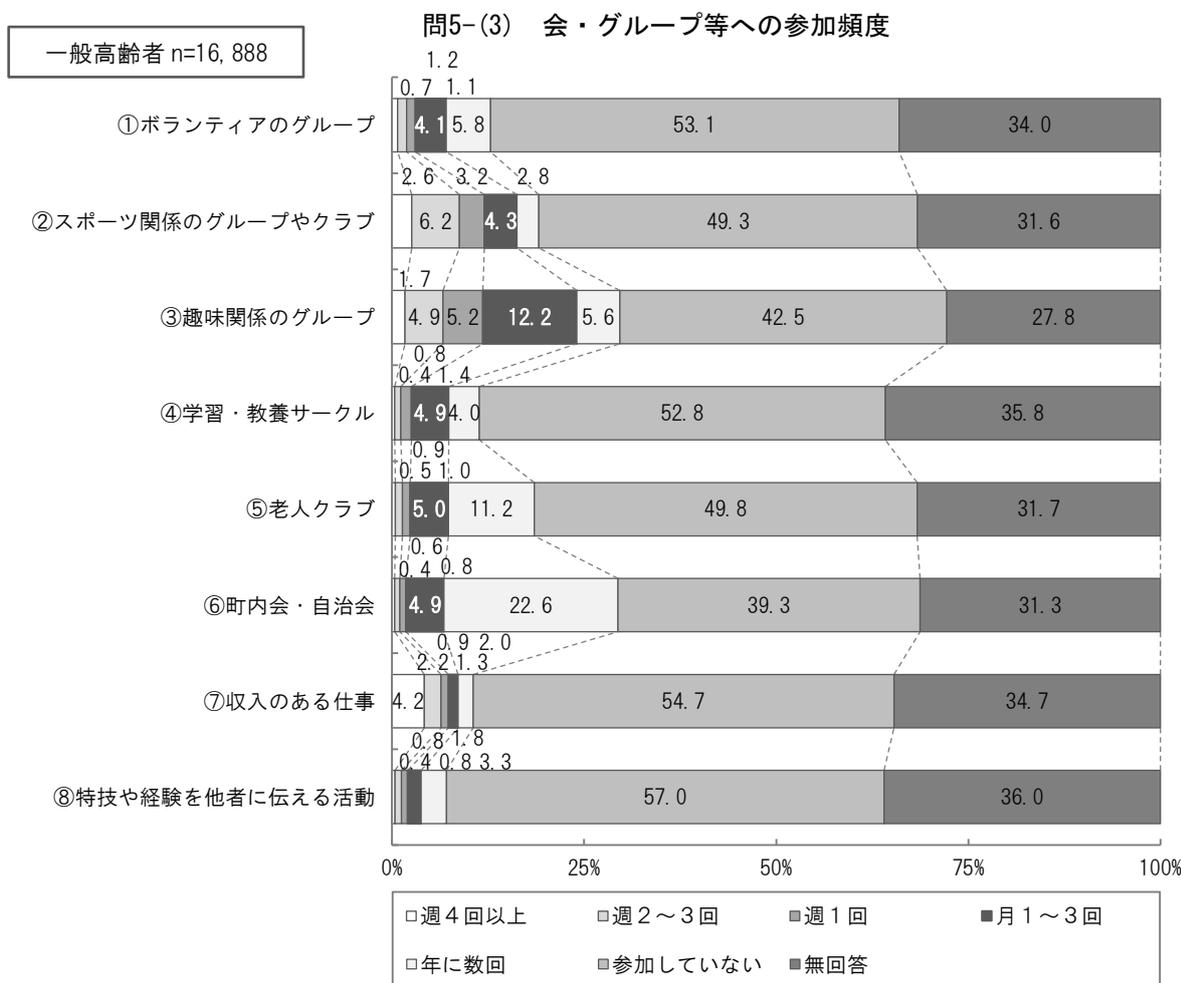


問5-(2) [問5-(2)] 地域でできると思う活動



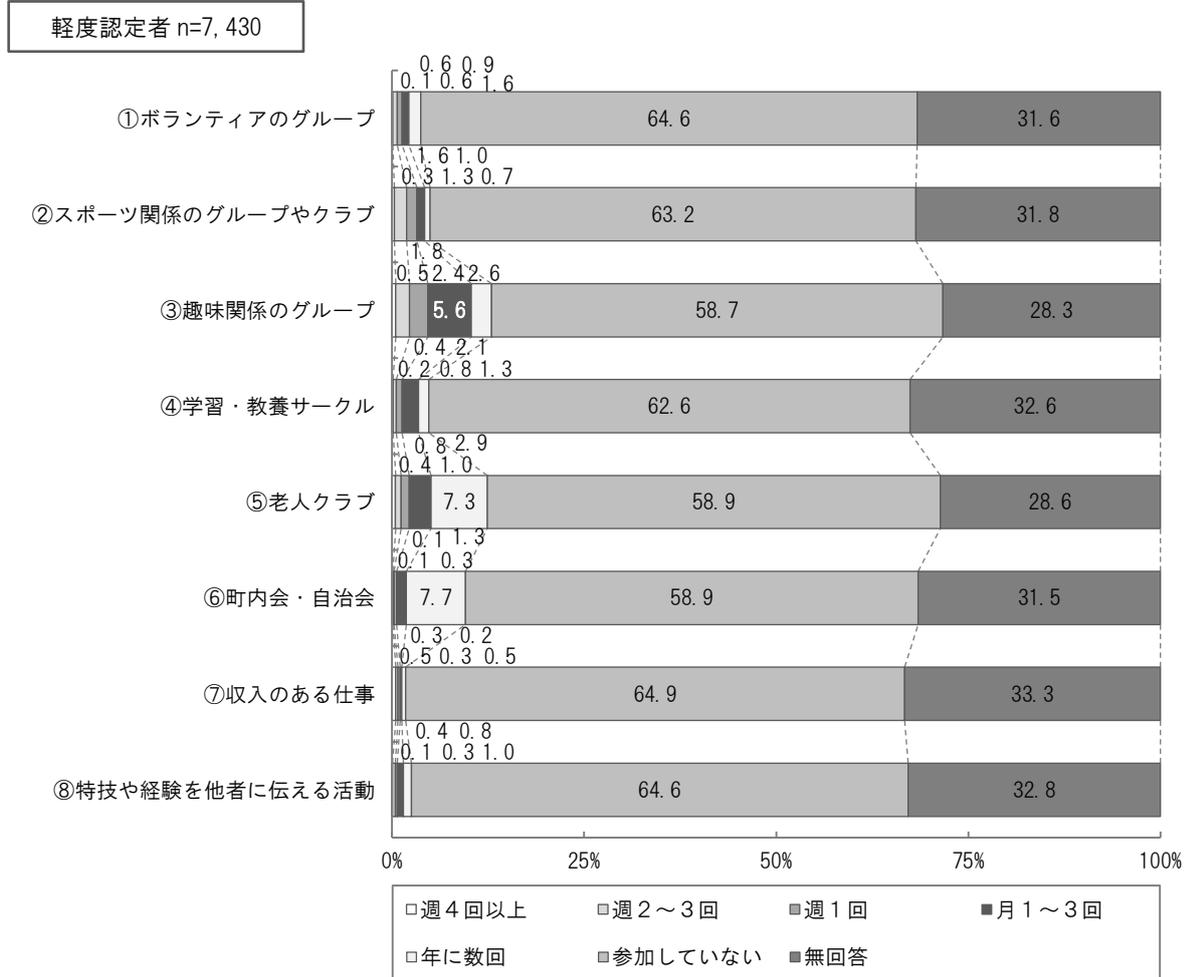
## (2) 会・グループ活動等の状況

●一般高齢者の、会・グループ等への参加頻度をみると、「週1回」以上の就労または「週1回」以上グループ等に参加していると回答した割合は、②スポーツ関係のグループやクラブ(12.0%)、③趣味関係のグループ(11.8%)、⑦収入のある仕事(7.3%)が上位となっています。



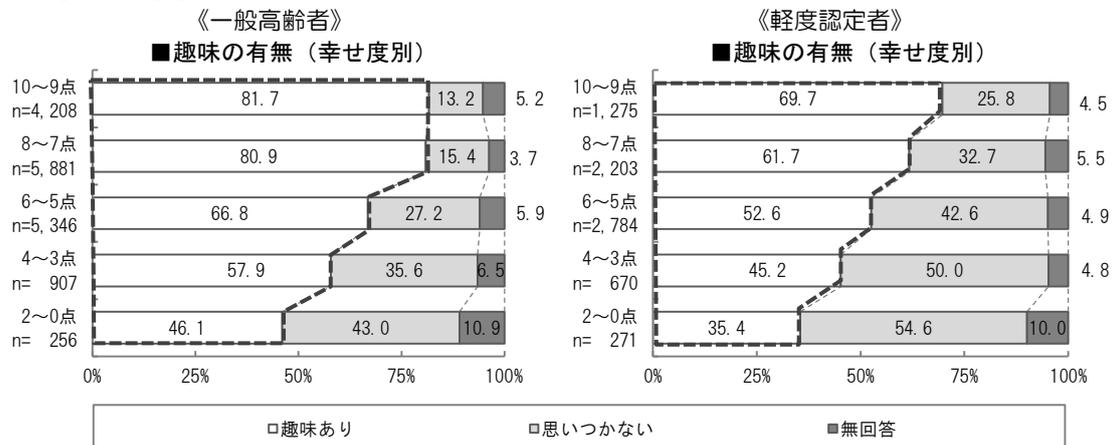
●一方、軽度認定者では、「週1回」以上の就労または「週1回」以上グループ等に参加していると回答した割合は、すべての項目で1割に満たない状況ですが、③趣味関係のグループ(4.7%)、②スポーツ関係のグループやクラブ(3.2%)、⑤老人クラブ(2.2%)が上位となっています。

【問5-(3)】 会・グループ等への参加頻度



【掘り下げ分析】 趣味のある人と幸福感の関係

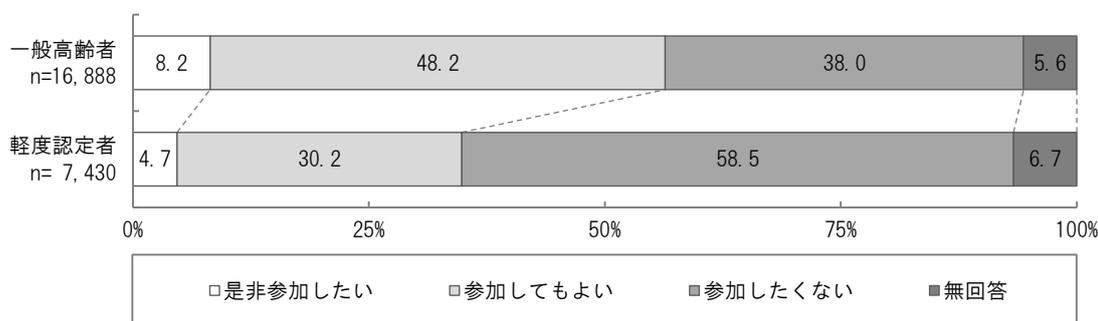
●一般高齢者・軽度認定者ともに幸せ度（点数）が低くなるにつれ、「趣味あり」と回答した割合も低くなっています。



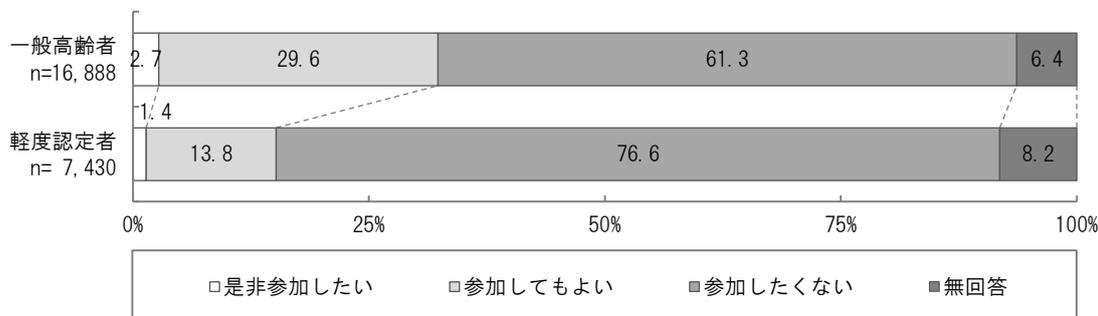
### (3) 地域づくりに対する参加意向

- 地域づくりの活動に参加者として参加してみたい一般高齢者は、「是非参加したい」(8.2%)と「参加してもよい」(48.2%)を合わせた56.4%となっています。
- 一方、軽度認定者は「是非参加したい」(4.7%)と「参加してもよい」(30.2%)を合わせた34.9%が参加を希望しています。
- 地域づくりの活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたい一般高齢者は、「是非参加したい」(2.7%)と「参加してもよい」(29.6%)を合わせた32.3%となっています。
- 一方、軽度認定者は「是非参加したい」(1.4%)と「参加してもよい」(13.8%)を合わせた15.2%が参加を希望しています。

問5-(4) [問5-(4)] 地域づくりの活動に参加者として参加してみたいか

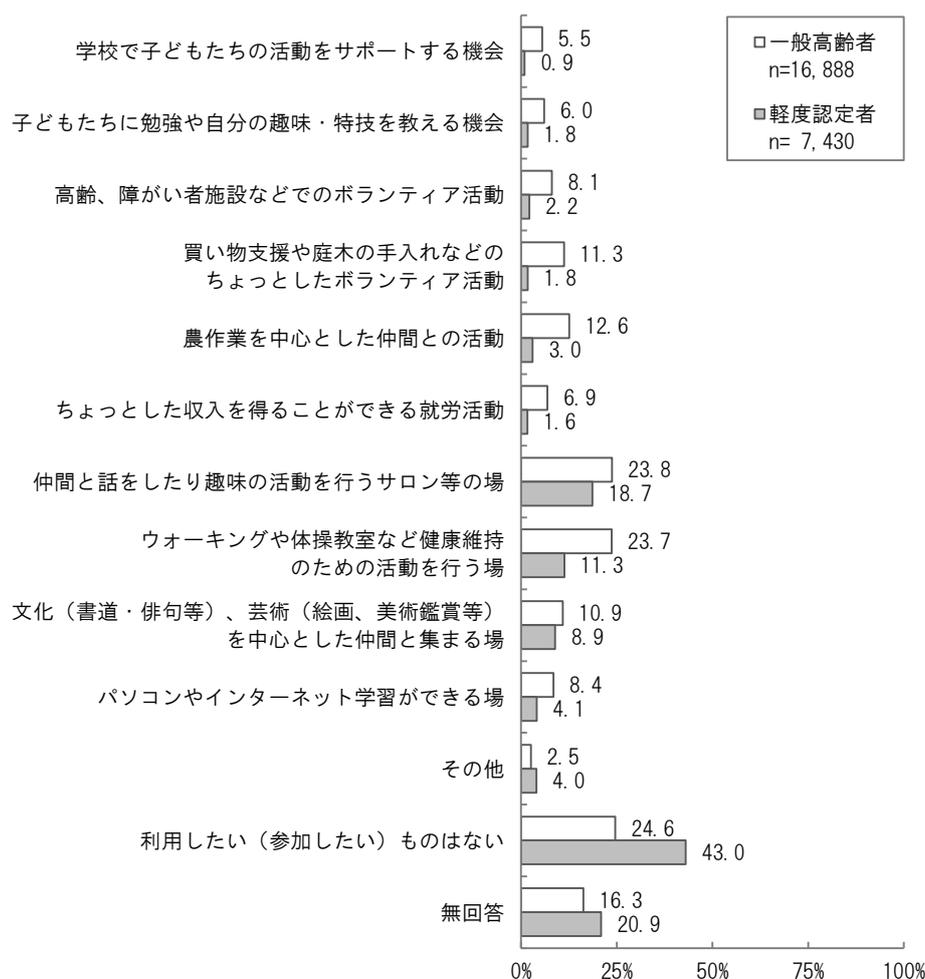


問5-(5) [問5-(5)] 地域づくりの活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいか



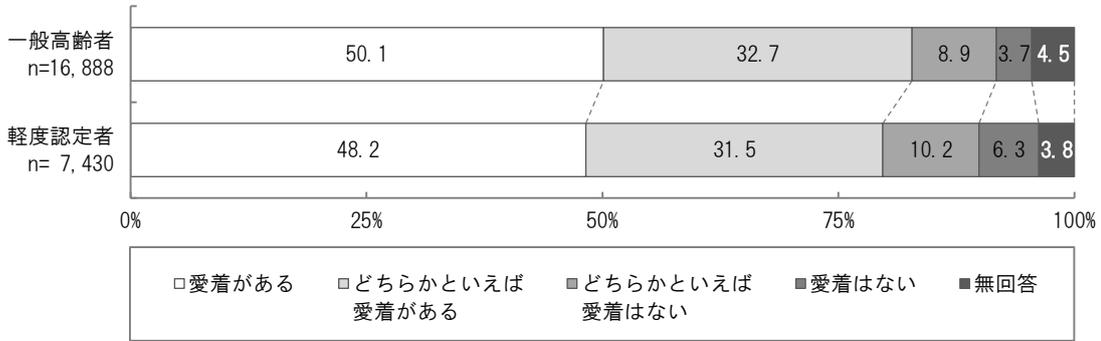
●利用したい（参加したい）と思う活動の場や参加の機会は、一般高齢者は「仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場」（23.8%）、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」（23.7%）の順となり、軽度認定者は「仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場」（18.7%）、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」（11.3%）の順となっていますが、両者ともに「利用したい（参加したい）ものはない」（24.6%・43.0%）が最も高くなっています。

問5-(6) [問5-(6)] 利用したい（参加したい）と思う活動の場や参加の機会



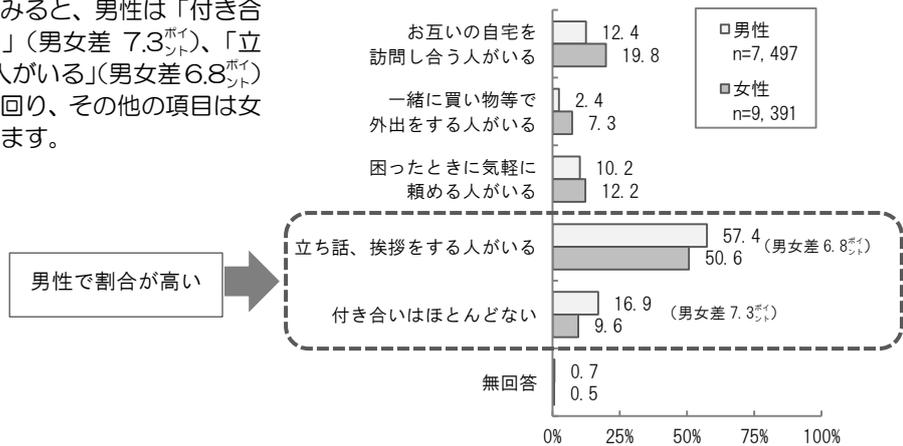
- 住んでいる地域への愛着がある一般高齢者は、「愛着がある」(50.1%)と「どちらかといえば愛着がある」(32.7%)を合わせた82.8%となっています。
- 一方、軽度認定者は「愛着がある」(48.2%)と「どちらかといえば愛着がある」(31.5%)を合わせた79.7%が愛着があると回答しています。

問5-(7) [問5-(7)] 住んでいる地域への愛着



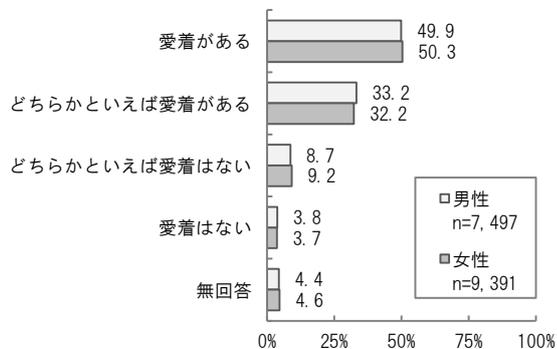
【掘り下げ分析】地域の人との付き合いの状況の男女差（一般高齢者）

- 一般高齢者の地域の人との付き合いに関して男女間の差をみると、男性は「付き合いはほとんどない」(男女差 7.3%)、「立ち話、挨拶をする人がいる」(男女差 6.8%)の項目で女性を上回り、その他の項目は女性で高くなっています。



【掘り下げ分析】住んでいる地域への愛着の男女差（一般高齢者）

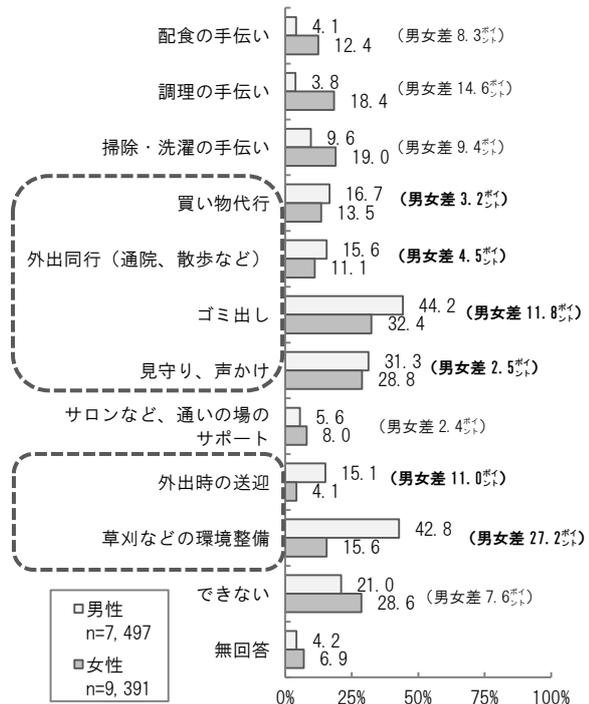
- 一般高齢者の住んでいる地域への愛着に関して男女間の差をみると、男女ともに「愛着がある」から「愛着がない」までの項目に大きな差はありませんでした。



【掘り下げ分析】地域でできると思う活動の男女差（一般高齢者）

●一般高齢者が提供できると思う地域での活動別割合に関して男女間の差をみると、男性は「草刈などの環境整備」（男女差27.2ポイント）、「ゴミ出し」（男女差11.8ポイント）、「外出時の送迎」（男女差11.0ポイント）、「外出同行（通院、散歩など）」（男女差4.5ポイント）、「買い物代行」（男女差3.2ポイント）、「見守り、声かけ」（男女差2.5ポイント）の項目で女性を上回っています。その他の項目は男性で高くなっています。

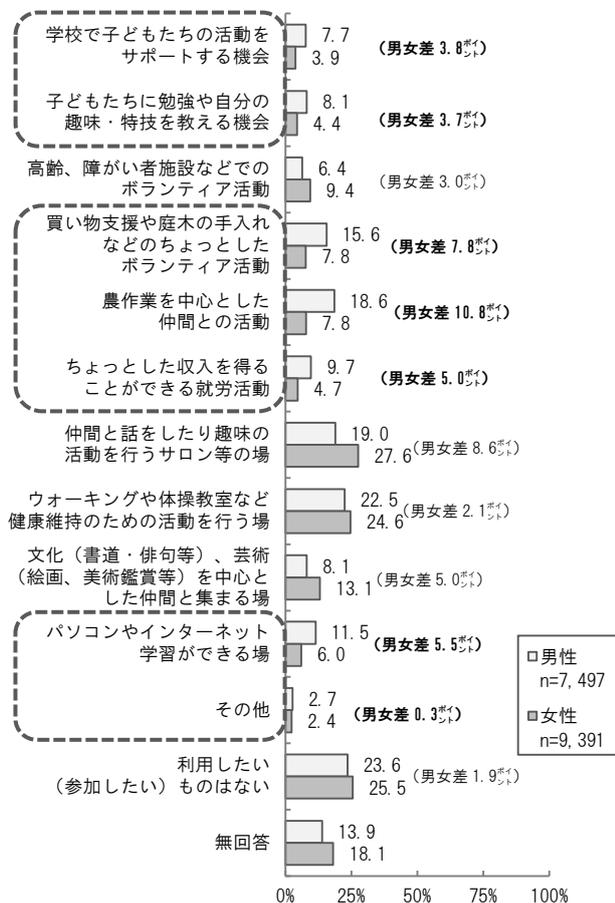
男性で割合が高い



【掘り下げ分析】利用したい（参加したい）と思う活動の場や参加の機会の男女差（一般高齢者）

●利用したい（参加したい）と思う活動の場や参加の機会に関して男女間の差をみると、男性は「農作業を中心とした仲間との活動」（男女差10.8ポイント）、「買い物支援や庭木の手入れなどのちょっとしたボランティア活動」（男女差7.8ポイント）、「学校で子どもたちの活動をサポートする機会」（男女差3.8ポイント）、「子どもたちに勉強や自分の趣味・特技を教える機会」（男女差3.7ポイント）、「その他」（男女差0.3ポイント）の項目で女性を上回っています。

男性で割合が高い



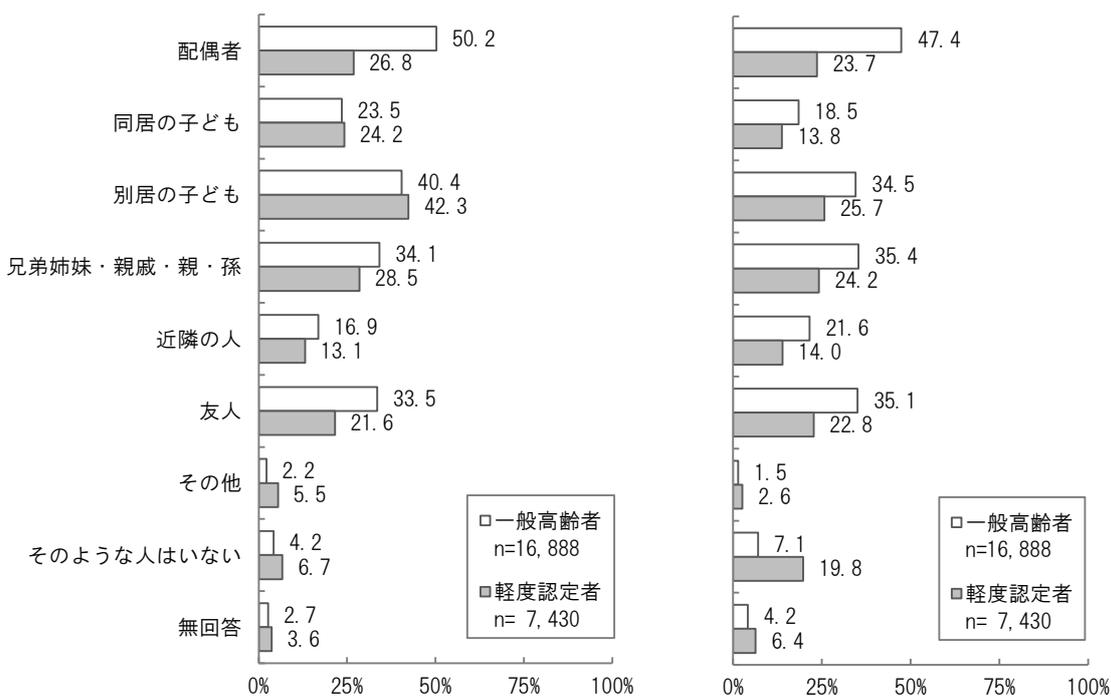
## 6 たすけあいについて

### (1) 困った際に頼る相手または頼られる相手

- 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人について、一般高齢者は「配偶者」（50.2%）が最も高く、次いで「別居の子ども」（40.4%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（34.1%）の順となっています。
- 一方、軽度認定者は「別居の子ども」（42.3%）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（28.5%）、「配偶者」（26.8%）の順となっています。
- 反対に心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人では、一般高齢者は「配偶者」（47.4%）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（35.4%）、「友人」（35.1%）の順となっています。
- 一方、軽度認定者は「別居の子ども」（25.7%）が最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（24.2%）、「配偶者」（23.7%）の順となっています。

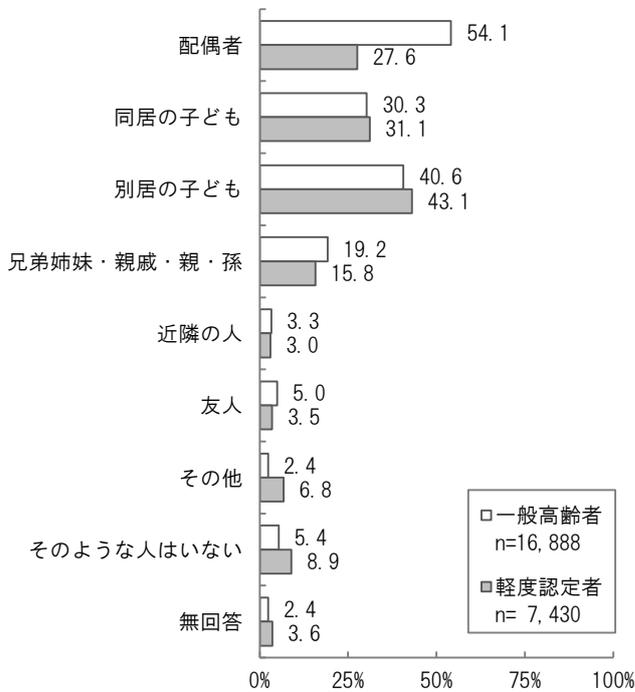
問6-(1) [問6-(1)] 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人

問6-(2) [問6-(2)] 心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人

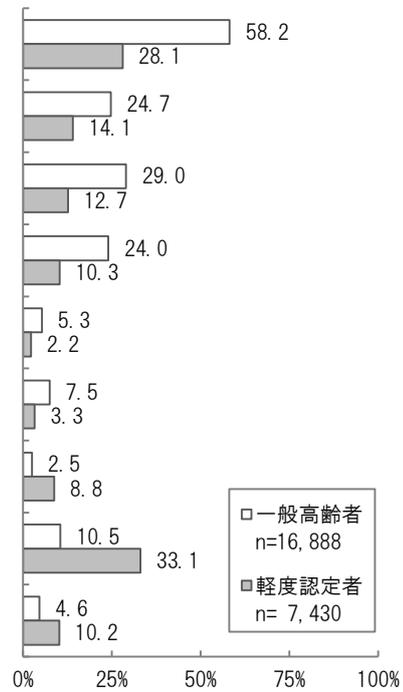


- 病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人では、一般高齢者は「配偶者」(54.1%)が最も高く、次いで「別居の子ども」(40.6%)、「同居の子ども」(30.3%)の順となっています。
- 一方、軽度認定者は「別居の子ども」(43.1%)が最も高く、次いで「同居の子ども」(31.1%)、「配偶者」(27.6%)の順となっています。
- 反対に看病や世話をしてあげる人では、一般高齢者は「配偶者」(58.2%)が最も高く、次いで「別居の子ども」(29.0%)、「同居の子ども」(24.7%)の順となっています。
- 一方、軽度認定者は「配偶者」(28.1%)、「同居の子ども」(14.1%)、「別居の子ども」(12.7%)の順となっていますが、「そのような人はいない」(33.1%)が最も高くなっています。

問6-(3) [問6-(3)] 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

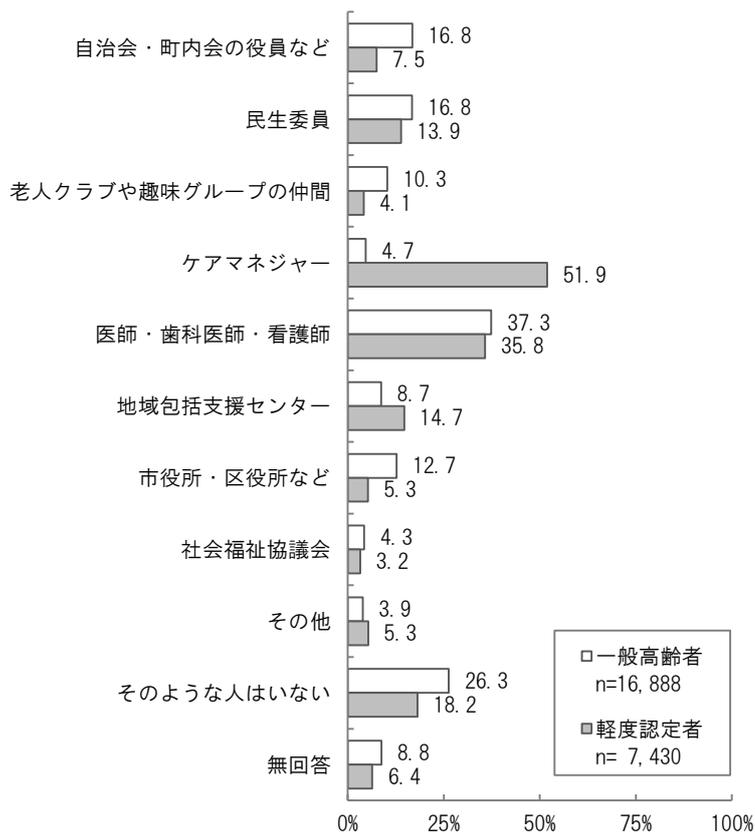


問6-(4) [問6-(4)] 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてあげる人



- 一般高齢者が、家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」(37.3%)、「自治会・町内会の役員など」「民生委員」(各16.8%)、「市役所・区役所など」(12.7%)が上位となっています。また、「そのような人はいない」と回答した割合も26.3%と高くなっています。
- 一方、軽度認定者は「ケアマネジャー」(51.9%)、「医師・歯科医師・看護師」(35.8%)、「地域包括支援センター」(14.7%)が上位となっています。また、「そのような人はいない」と回答した割合も18.2%と高くなっています。

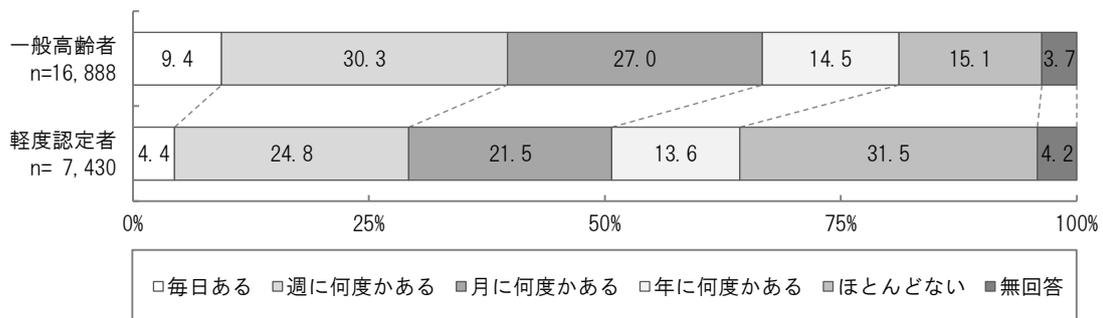
問6-(5) [問6-(5)] 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手



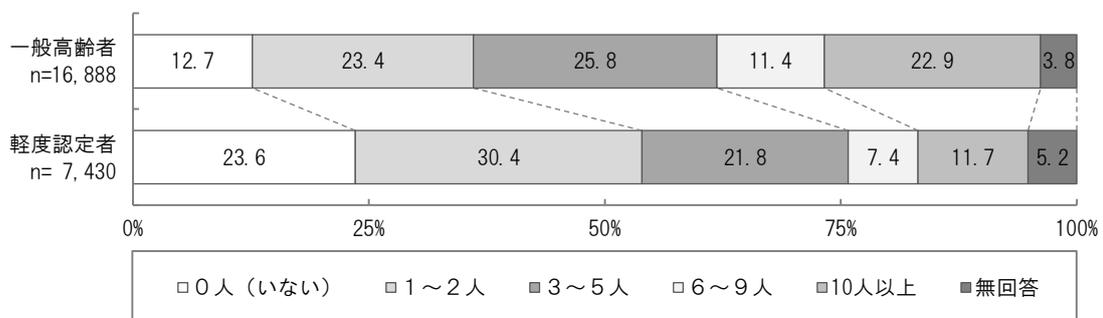
## (2) 友人・知人との交流状況

- 友人・知人と会う頻度は、一般高齢者は「週に何度かある」(30.3%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(27.0%)の順となり、「ほとんどない」は15.1%となっています。
- 一方、軽度認定者は「週に何度かある」(24.8%)、「月に何度かある」(21.5%)の順となり、「ほとんどない」は31.5%で最も高くなっています。
- 1か月間に何人の友人・知人と会ったかでは、一般高齢者は「3～5人」(25.8%)が最も高く、次いで「1～2人」(23.4%)、「10人以上」(22.9%)の順となっています。
- 一方、軽度認定者は「1～2人」(30.4%)が最も高く、次いで「0人(いない)」(23.6%)、「3～5人」(21.8%)の順となっています。

問6-(6) [問6-(6)] 友人・知人と会う頻度



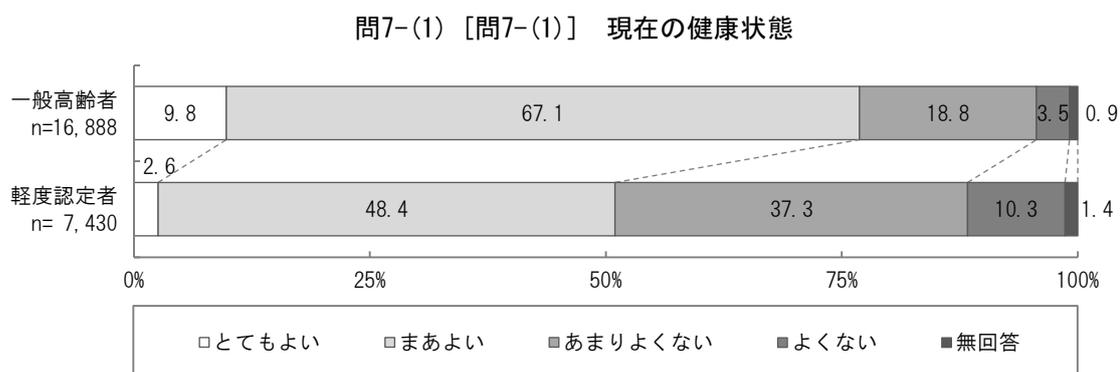
問6-(7) [問6-(7)] この1か月間に会った友人・知人の人数



## 7 健康について

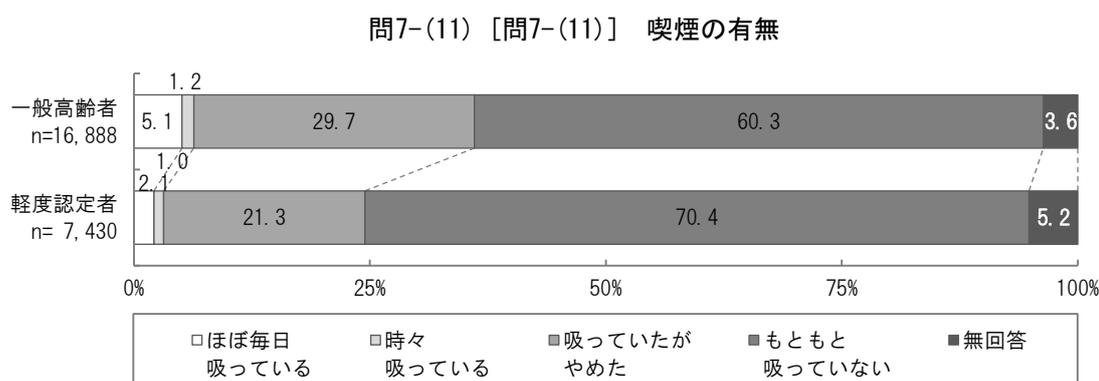
### (1) 健康状態

- 現在の主観的健康感をみると、一般高齢者は「まあよい」(67.1%)が最も高く、「とてもよい」(9.8%)を合わせた76.9%が健康と感じています。
- 一方、軽度認定者は「まあよい」(48.4%)が最も高く、「とてもよい」(2.6%)を合わせた51.0%が健康と感じています。



### (2) 喫煙の有無

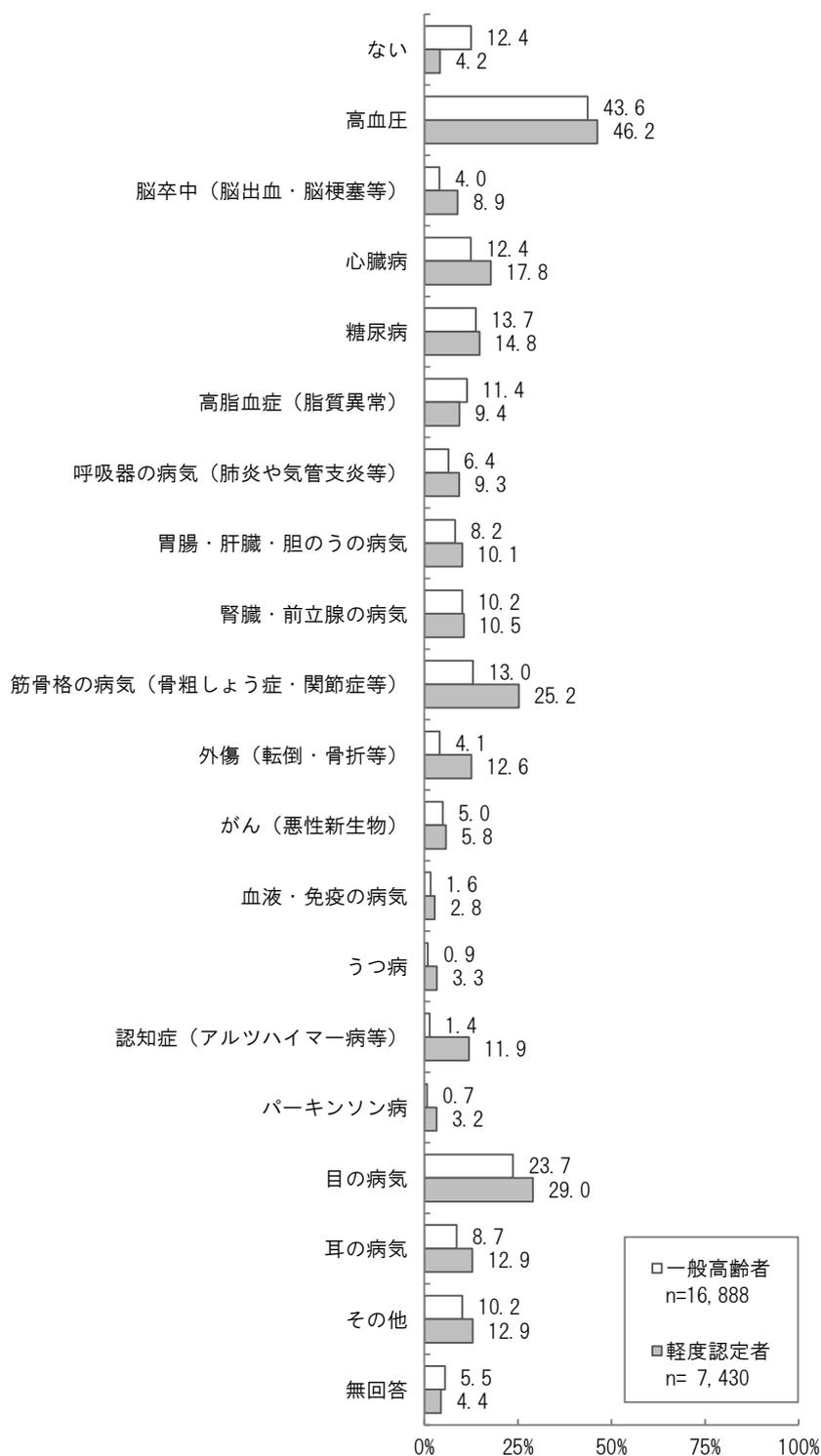
- 喫煙している一般高齢者は「ほぼ毎日吸っている」(5.1%)と「時々吸っている」(1.2%)を合わせた6.3%となっています。
- 一方、軽度認定者は「ほぼ毎日吸っている」(2.1%)と「時々吸っている」(1.0%)を合わせた3.1%が喫煙しています。



### (3) 疾病の状況

- 現在治療中、または後遺症のある病気の有無をみると、一般高齢者と軽度認定者ともに「高血圧」(43.6%・46.2%)が最も高くなっています。
- また、一般高齢者で「ない」と回答した方は12.4%、軽度認定者では4.2%となっています。

問7-(10) [問7-(10)] 現在治療中、または後遺症のある病気

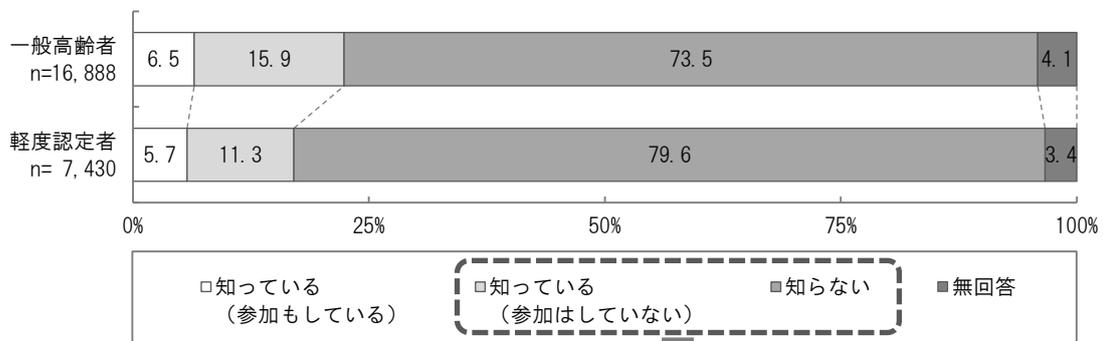


#### (4) あっ晴れ！もも太郎体操について

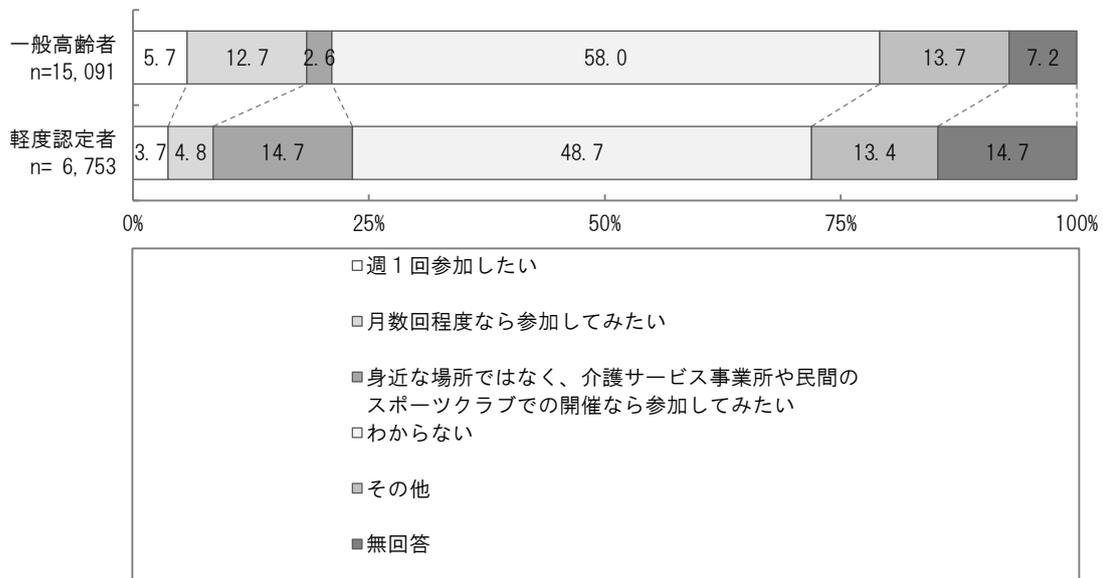
- あっ晴れ！もも太郎体操<sup>※1</sup>の認知状況について、一般高齢者と軽度認定者ともに「知らない」(73.5%・79.6%)が最も高くなっています。
- あっ晴れ！もも太郎体操への参加意向をみると、一般高齢者と軽度認定者ともに「わからない」(58.0%・48.7%)が最も高く、次いで一般高齢者は「月数回程度なら参加してみたい」(12.7%)、軽度認定者は「身近な場所ではなく、介護サービス事業所や民間のスポーツクラブでの開催なら参加してみたい」(14.7%)となっています。

※1「あっ晴れ！もも太郎体操」は、地域の方が身近な場所で実践することで、心身ともに元気になることを目的とした岡山市の体操です。現在、自宅から歩いて行ける場所（集会所等）で、多くの方が取り組んでいます。体操を初めて取り組む場合は、介護予防センターの職員が訪問して、効果的な体操のやり方を説明し、また、運動・口腔等についての講話も行います。

問7-(12) [問7-(12)] 「あっ晴れ！もも太郎体操」の認知状況

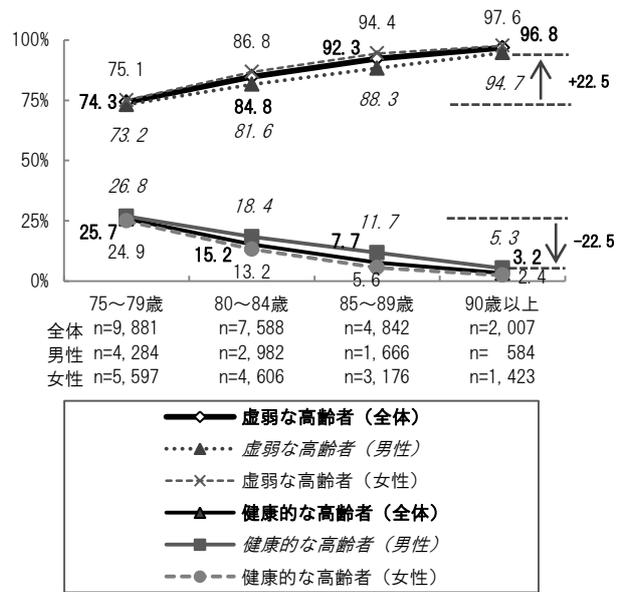


問7-(12).① [問7-(12).①] 「あっ晴れ！もも太郎体操」への参加意向



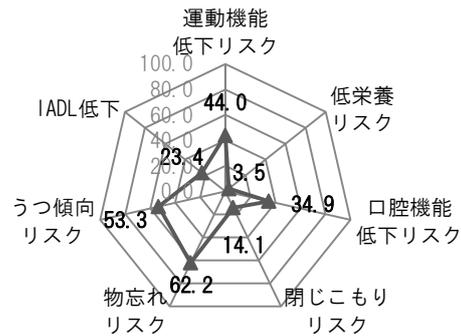
【掘り下げ分析】年齢階級別の後期高齢者像（一般高齢者＋軽度認定者）

- 加齢（5歳階級別）に伴う健康的な高齢者の変化をみると、「75～79歳」（25.7%）から「90歳以上」（3.2%）にかけて、22.5ポイントと大きく減少しています。男女別では全年齢階級で男性の割合が女性を上回っています。
- 反対に虚弱な高齢者の変化では「75～79歳」（74.3%）から「90歳以上」（96.8%）にかけて、22.5ポイントと大きく増加しています。男女別では全年齢階級で女性の割合が男性を上回っています。



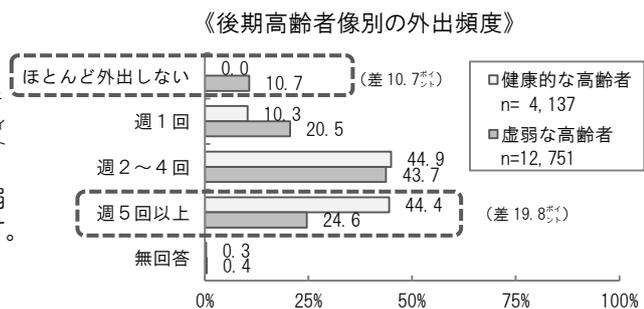
【掘り下げ分析】後期高齢者のリスク該当状況（一般高齢者＋軽度認定者）

- 虚弱な高齢者では「物忘れリスク」（62.2%）、「うつ傾向リスク」（53.3%）、「運動機能低下リスク」（44.0%）、「口腔機能低下リスク」（34.9%）、「IADL低下」（23.4%）、「閉じこもりリスク」（14.1%）、「低栄養リスク」（3.5%）の順に高くなっています。

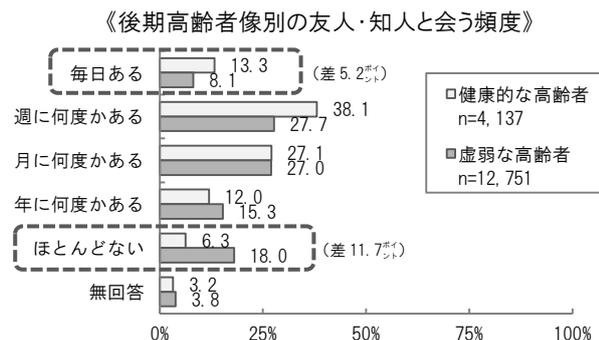


【掘り下げ分析】後期高齢者における生活習慣行動（一般高齢者）

- 健康的な高齢者と虚弱な高齢者の外出頻度の差をみると、「ほとんど外出しない」は健康的な高齢者が0.0%、虚弱な高齢者が10.7%で、虚弱な高齢者の方が10.7ポイント高く、「週5回以上」は健康的な高齢者が44.4%、虚弱な高齢者が24.6%で、虚弱な高齢者の方が19.8ポイント低くなっています。

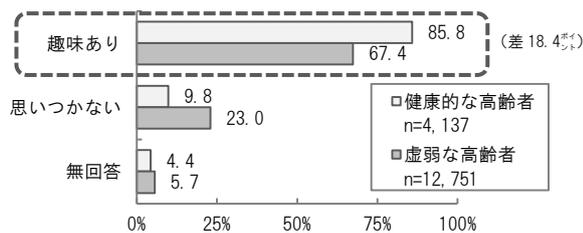


- 健康的な高齢者と虚弱な高齢者の友人・知人と会う頻度の差をみると、「ほとんどない」は健康的な高齢者が6.3%、虚弱な高齢者が18.0%で、虚弱な高齢者の方が11.7ポイント高く、「毎日ある」は健康的な高齢者が13.3%、虚弱な高齢者が8.1%で、虚弱な高齢者の方が5.2ポイント低くなっています。



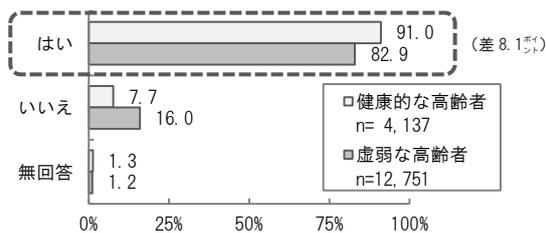
【掘り下げ分析】健康的な高齢者と虚弱な高齢者の趣味の状況（一般高齢者）

●健康的な高齢者と虚弱な高齢者の趣味の状況をみると、「趣味あり」は健康的な高齢者では85.8%、虚弱な高齢者では67.4%となり、前者が18.4ポイント上回っています。



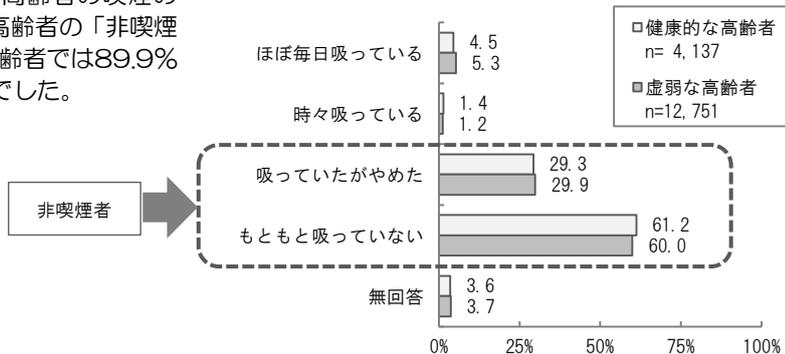
【掘り下げ分析】健康的な高齢者と虚弱な高齢者の健康的な食事の状況（一般高齢者）

●健康的な高齢者と虚弱な高齢者の健康的な食事の状況をみると、「野菜料理と主菜を両方とも毎日1回は食べている」と回答した健康的な高齢者は91.0%、虚弱な高齢者は82.9%となり、前者が8.1ポイント上回っています。



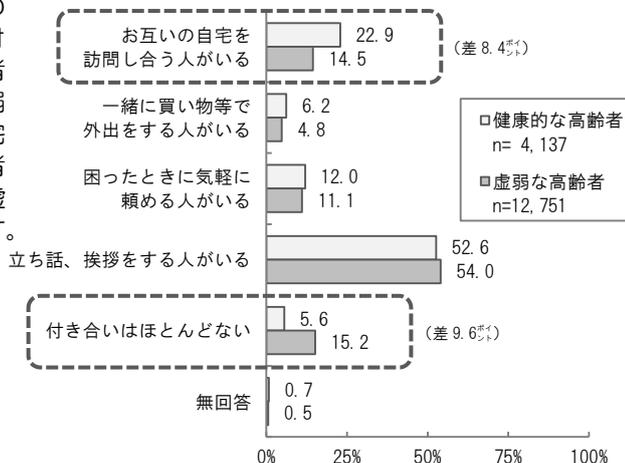
【掘り下げ分析】健康的な高齢者と虚弱な高齢者の喫煙の状況（一般高齢者）

●健康的な高齢者と虚弱な高齢者の喫煙の状況をみると、健康的な高齢者の「非喫煙者」は90.5%、虚弱な高齢者では89.9%と大きな差はありませんでした。



【掘り下げ分析】健康的な高齢者と虚弱な高齢者の地域の人との付き合いの状況（一般高齢者）

●健康的な高齢者と虚弱な高齢者の地域の人との付き合いの状況の差をみると、「付き合いはほとんどない」は健康的な高齢者が5.6%、虚弱な高齢者が15.2%で、虚弱な高齢者の方が9.6ポイント高く、「お互いの自宅を訪問し合う人がいる」は健康的な高齢者が22.9%、虚弱な高齢者が14.5%で、虚弱な高齢者の方が8.4ポイント低くなっています。

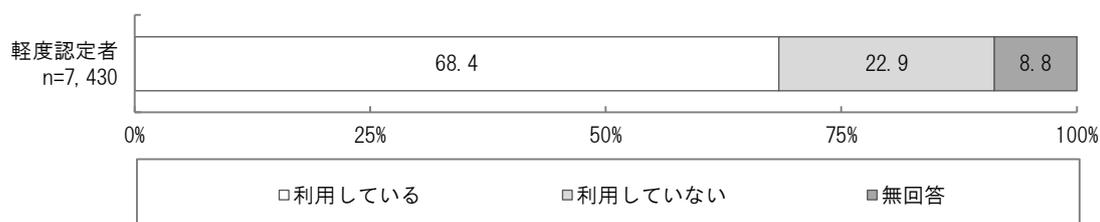


## 8 支援・サービスの利用状況・ニーズについて

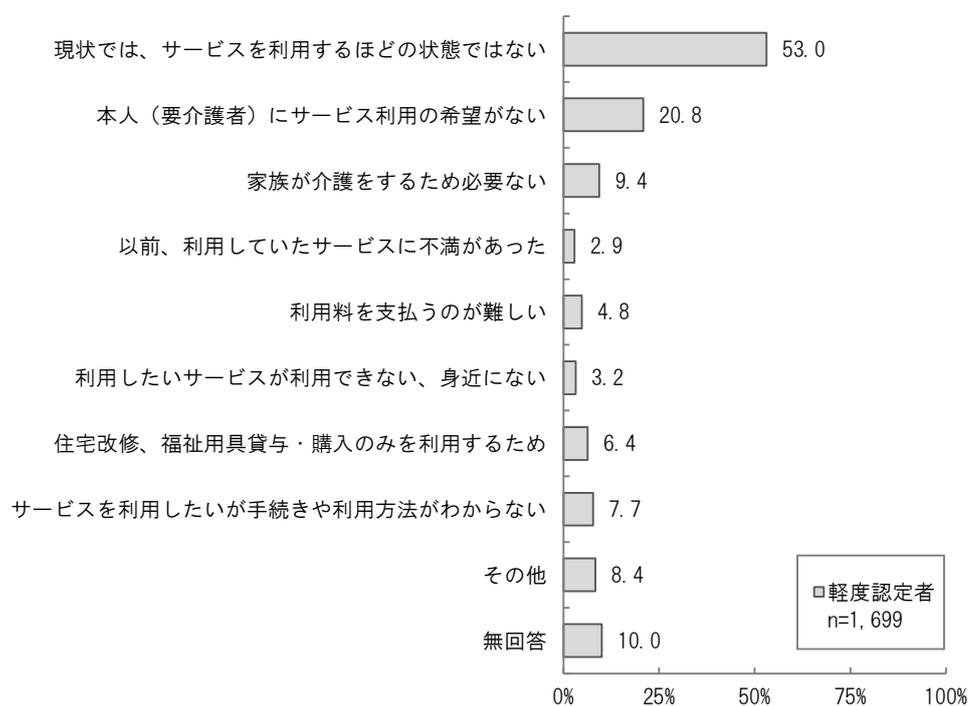
### (1) 利用したい支援・サービス

- 軽度認定者の介護保険サービスの利用状況について、「利用している」と回答した方は68.4%、「利用していない」と回答した方は22.9%となっています。
- 介護保険サービスを利用していない理由をみると、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(53.0%)が最も高く、次いで「本人(要介護者)にサービス利用の希望がない」(20.8%)、「家族が介護をするため必要ない」(9.4%)となっています。

[問8-(1)] 介護保険サービスの利用状況

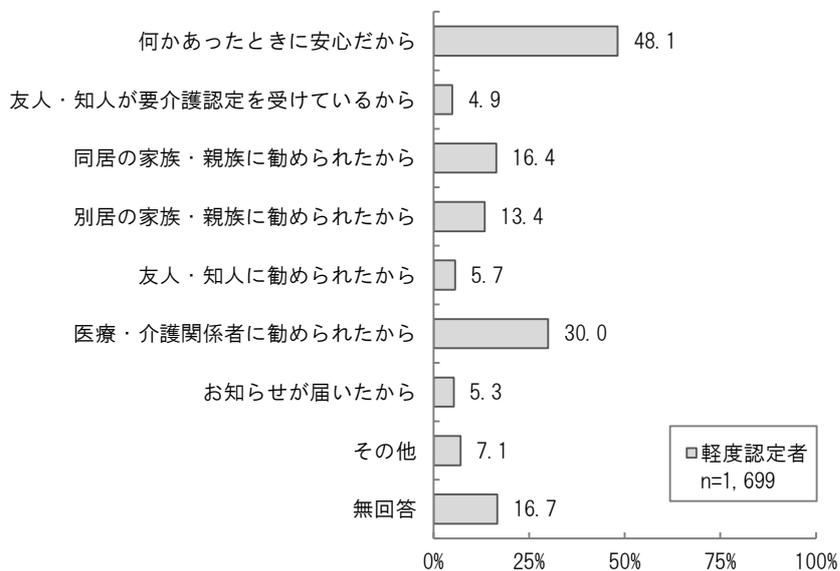


[問8-(1).①] 介護保険サービスを利用していない理由



- 介護保険サービスを利用していないと回答した方が、要介護認定を受けた理由について、「何かあったときに安心だから」(48.1%)が最も高く、次いで「医療・介護関係者に勧められたから」(30.0%)、「同居の家族・親族に勧められたから」(16.4%)と回答しています。

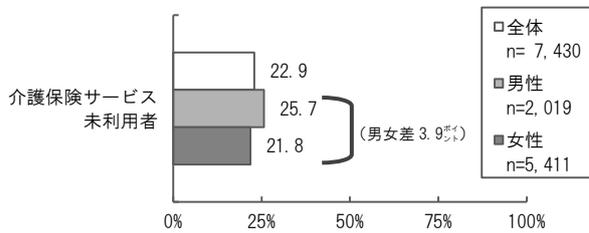
[問8-(1).②] 要介護認定を受けた理由



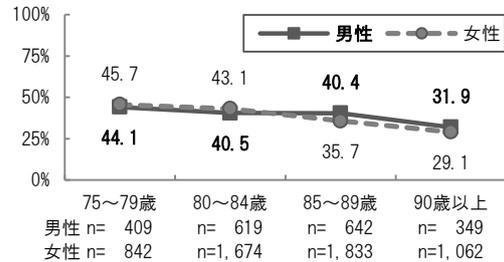
【掘り下げ分析】介護保険サービス未利用者の状況（軽度認定者）

●軽度認定者の調査結果から後期高齢者における「介護保険サービス未利用者」の割合をみると、22.9%となっています。また、男女間の差を見ると男性（25.7%）が女性（21.8%）より3.9ポイント高く、年齢階級別では男女とも加齢にともない割合は低下しています。

《男女別介護保険サービス未利用者の状況》

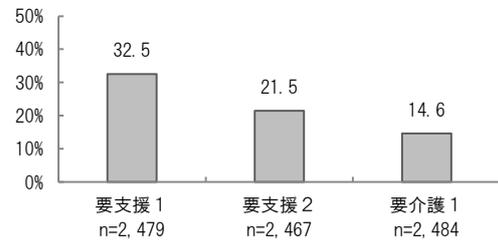


《年齢階級別介護保険サービス未利用者の状況》



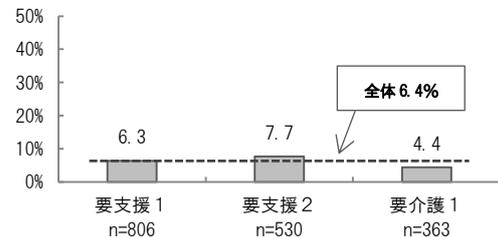
●要介護度別にみると、「要支援1」（32.5%）で未利用者割合が最も高く、次いで「要支援2」（21.5%）、「要介護1」（14.6%）となっています。

《要介護度別介護保険サービス未利用者の状況》



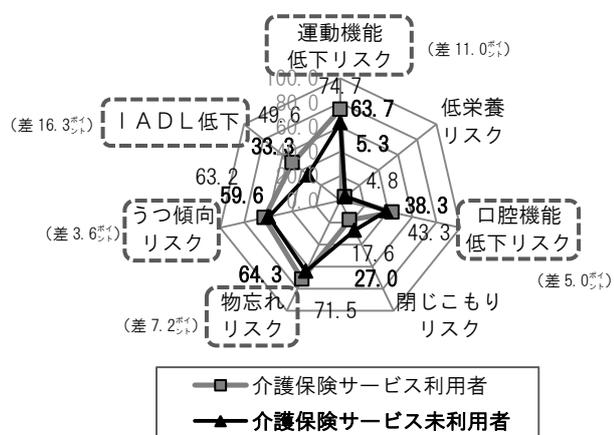
●住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するためと回答した介護保険サービス未利用者は全体で6.4%おり、要介護度別にみると「要支援2」（7.7%）が最も高く、次いで「要支援1」（6.3%）、「要介護1」（4.4%）となっています。

《住宅改修、福祉用具貸与・購入のみ利用の介護保険サービス未利用者の要介護度別状況》



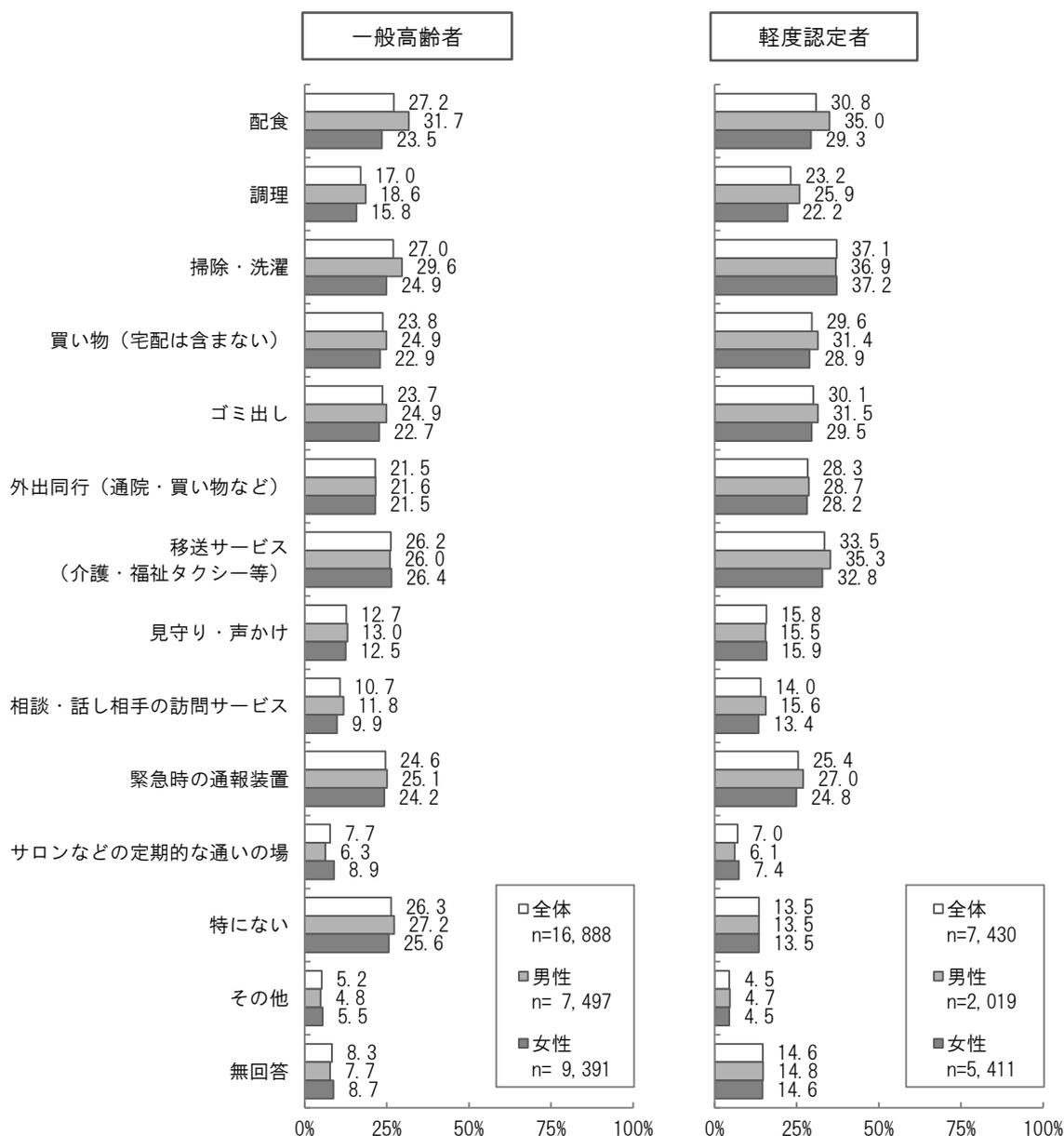
●介護保険サービス利用者と、介護保険サービス未利用者の7項目リスク指標における差をみると、「IADL低下」（差16.3ポイント）、「運動機能低下リスク」（差11.0ポイント）、「物忘れリスク」（差7.2ポイント）、「口腔機能低下リスク」（差5.0ポイント）、「うつ傾向リスク」（差3.6ポイント）の5項目で、介護保険サービス利用者の該当割合が介護保険サービス未利用者の割合を上回っています。

《リスク該当状況》



- 在宅で生活をするために必要なサービスについて、一般高齢者は「配食」(27.2%)が最も高く、次いで「掃除・洗濯」(27.0%)、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(26.2%)となっています。また、男女別にみると「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「サロンなどの定期的な通いの場」、「その他」を除くサービスでは、男性の割合が女性を上回っています。
- 一方、軽度認定者は「掃除・洗濯」(37.1%)が最も高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(33.5%)、「配食」(30.8%)となっています。また、男女別にみると「掃除・洗濯」、「見守り・声かけ」、「サロンなどの定期的な通いの場」を除くサービスでは、男性の割合が女性を上回っています。

問8-(1) [問8-(2)] 在宅で生活をするために必要なサービス

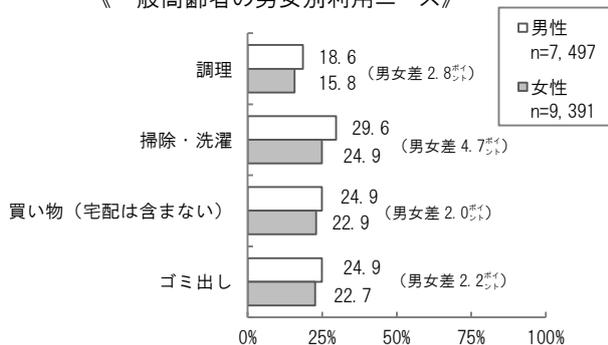


【掘り下げ分析】在宅で生活をするために必要な生活支援サービス

※主な生活支援サービスを切り取って分析しています。

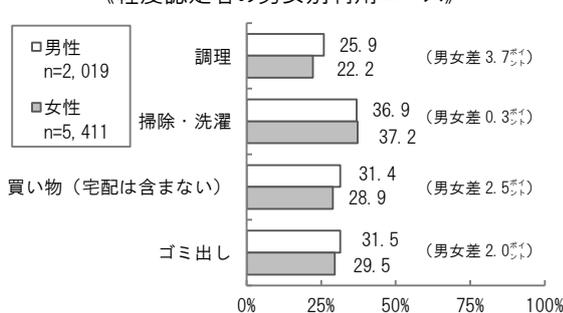
- 男女別にみると、一般高齢者では「掃除・洗濯」(29.6%・24.9%)で4.7ポイント、「調理」(18.6%・15.8%)で2.8ポイント、「ゴミ出し」(24.9%・22.7%)で2.2ポイント、「買い物(宅配は含まない)」(24.9%・22.9%)で2.0ポイント男性が女性を上回っています。

《一般高齢者の男女別利用ニーズ》



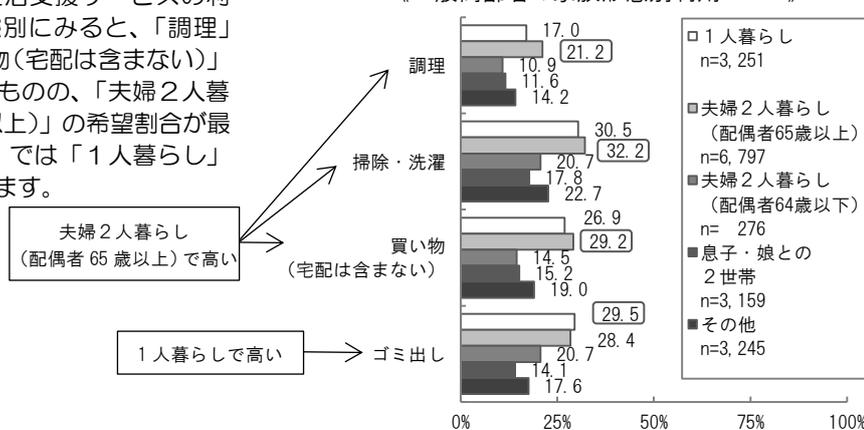
- 一方、軽度認定者では「調理」(25.9%・22.2%)で3.7ポイント、「買い物(宅配は含まない)」(31.4%・28.9%)で2.5ポイント、「ゴミ出し」(31.5%・29.5%)で2.0ポイント男性が女性を上回っています。

《軽度認定者の男女別利用ニーズ》



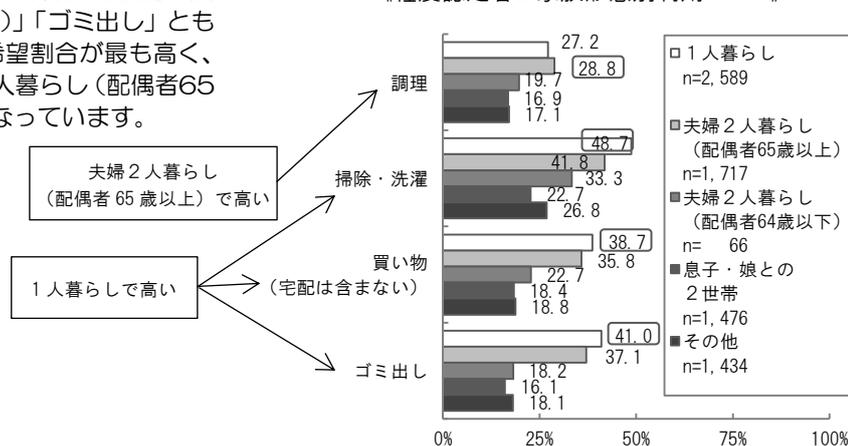
- 一般高齢者の主な生活支援サービスの利用ニーズを家族形態別にみると、「調理」「掃除・洗濯」「買い物(宅配は含まない)」ともに割合差はあるものの、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」の希望割合が最も高く、「ゴミ出し」では「1人暮らし」が最も高くなっています。

《一般高齢者の家族形態別利用ニーズ》



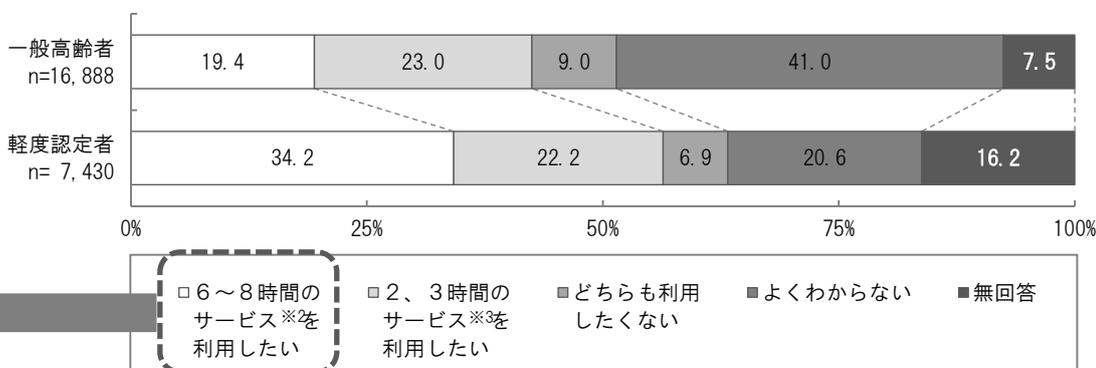
- 一方、軽度認定者では「掃除・洗濯」「買い物(宅配は含まない)」「ゴミ出し」ともに「1人暮らし」の希望割合が最も高く、「調理」では「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が最も高くなっています。

《軽度認定者の家族形態別利用ニーズ》



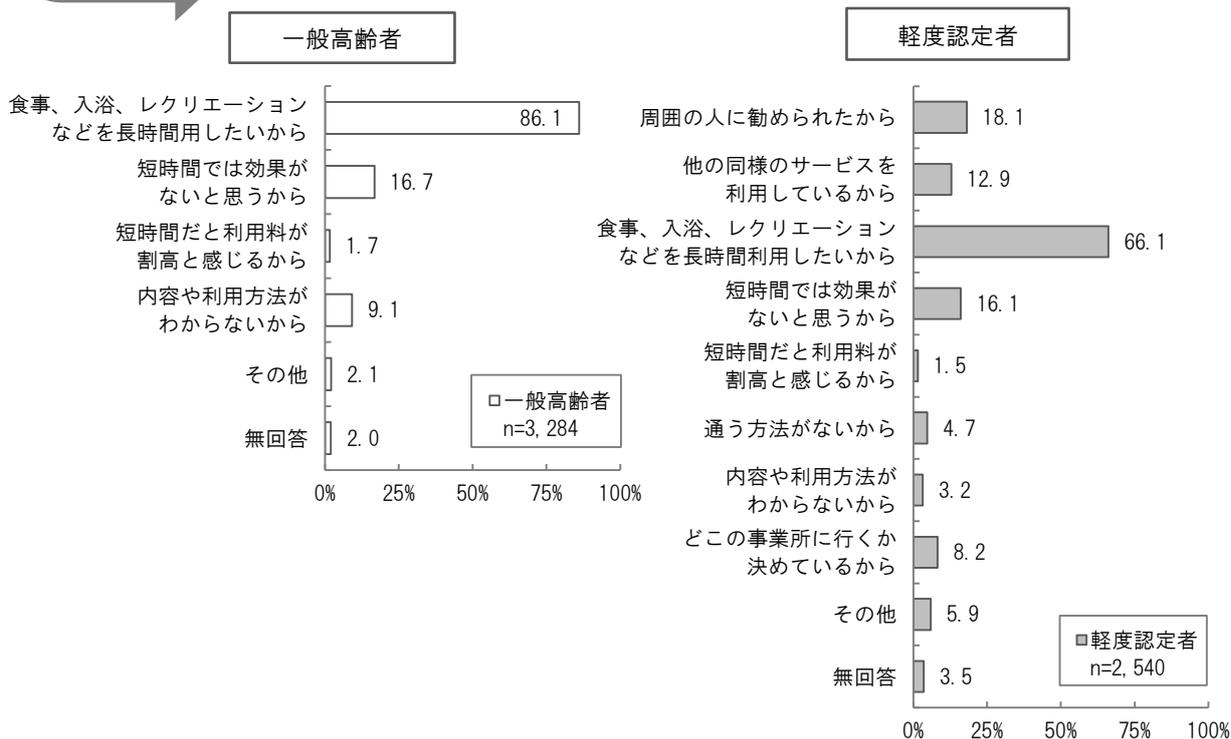
- 主に利用したいデイサービス（通所サービス）について、一般高齢者は「よくわからない」（41.0%）が最も高く、次いで「2、3時間のサービスを利用したい」（23.0%）、「6～8時間のサービスを利用したい」（19.4%）となっています。
- 一方、軽度認定者は「6～8時間のサービスを利用したい」（34.2%）が最も高く、次いで「2、3時間のサービスを利用したい」（22.2%）、「よくわからない」（20.6%）となっています。
- 「6～8時間」のサービスを選んだ理由をみると、一般高齢者は「食事、入浴、レクリエーションなどを長時間用いたいから」（86.1%）が最も高く、次いで「短時間では効果がないと思うから」（16.7%）となっています。
- 一方、軽度認定者は「食事、入浴、レクリエーションなどを長時間利用したいから」（66.1%）が最も高く、次いで「周囲の人に勧められたから」（18.1%）となっています。

問8-(2) [問8-(3)] 主に利用したいデイサービス（通所サービス）



※2 6～8時間の間で食事、入浴、レクリエーション、身体機能の維持・改善のためのトレーニングが受けられるサービスです。  
 ※3 2、3時間の間で身体機能の維持・改善のためのトレーニングを中心に受けられるサービスです。

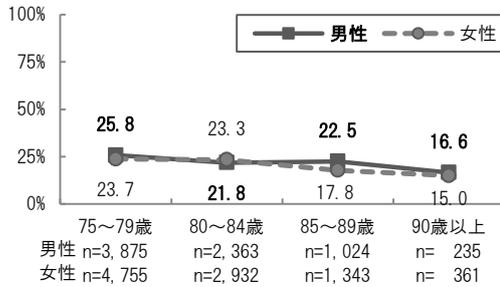
問8-(2).① [問8-(3).①] 「6～8時間」のサービスを選んだ理由



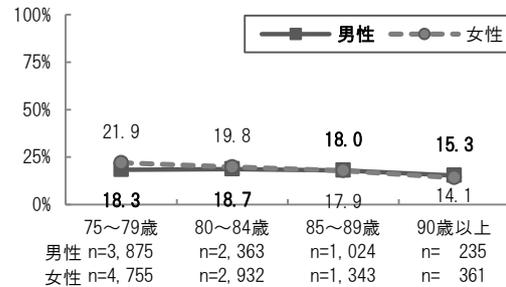
【掘り下げ分析】 デイサービス（通所サービス）の利用希望者の状況

- 一般高齢者のデイサービス（通所サービス）の利用希望を短時間・長時間別にみると、『2、3時間のサービス希望』では、「80～84歳」を除いて男性の割合が女性を上回っています。一方、『6～8時間のサービス希望』では、「84歳以下」で女性の割合が男性より高いものの、「85歳以上」では男性が高くなります。

《2、3時間のサービス希望の一般高齢者》

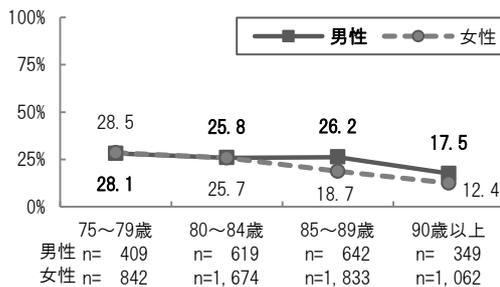


《6～8時間のサービス希望の一般高齢者》

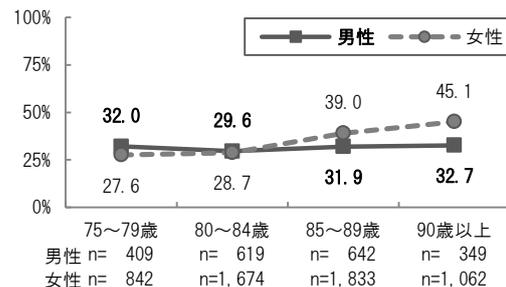


- 軽度認定者では、『2、3時間のサービス希望』は、「75～79歳」を除いて男性の割合が女性を上回っています。一方、『6～8時間のサービス希望』では、男性はいずれの年齢階級も3割前後と横ばいであるのに対し、女性は「85歳以上」で大きく上昇しています。

《2、3時間のサービス希望の軽度認定者》

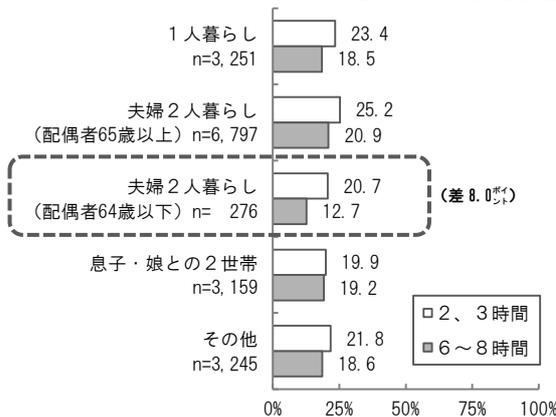


《6～8時間のサービス希望の軽度認定者》

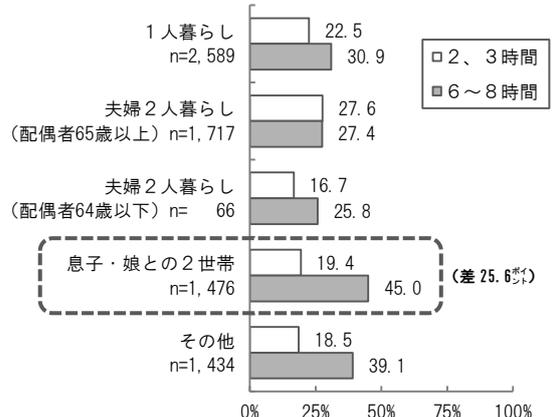


- 家族形態別に短時間・長時間の利用希望をみると、一般高齢者ではいずれの家族形態でも『6～8時間のサービス希望』より『2、3時間のサービス希望』の割合が高く、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」ではその差が8.0<sup>ポイント</sup>と最も高くなっています。一方、軽度認定者では「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」以外の家族形態で、『2、3時間のサービス希望』より『6～8時間のサービス希望』の割合が高く、「息子・娘との2世帯」ではその差が25.6<sup>ポイント</sup>と最も高くなっています。

《デイサービス短時間・長時間別利用希望者の家族形態（一般高齢者）》

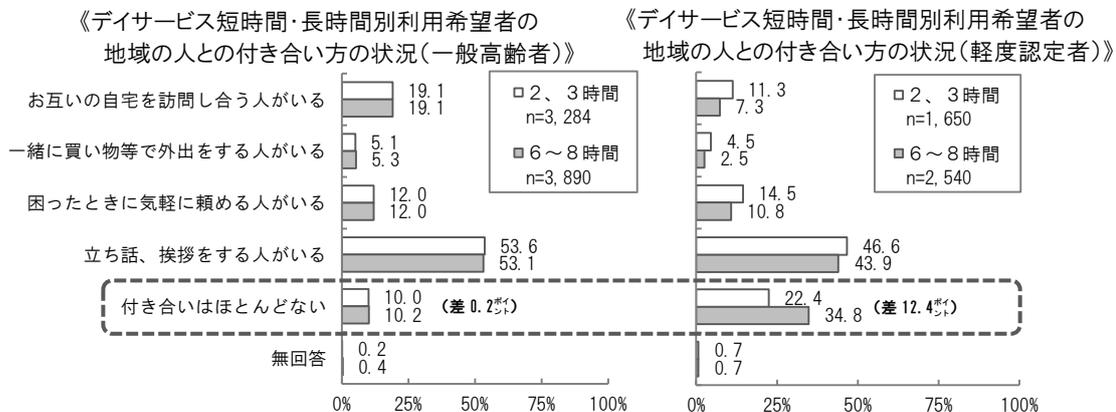


《デイサービス短時間・長時間別利用希望者の家族形態（軽度認定者）》

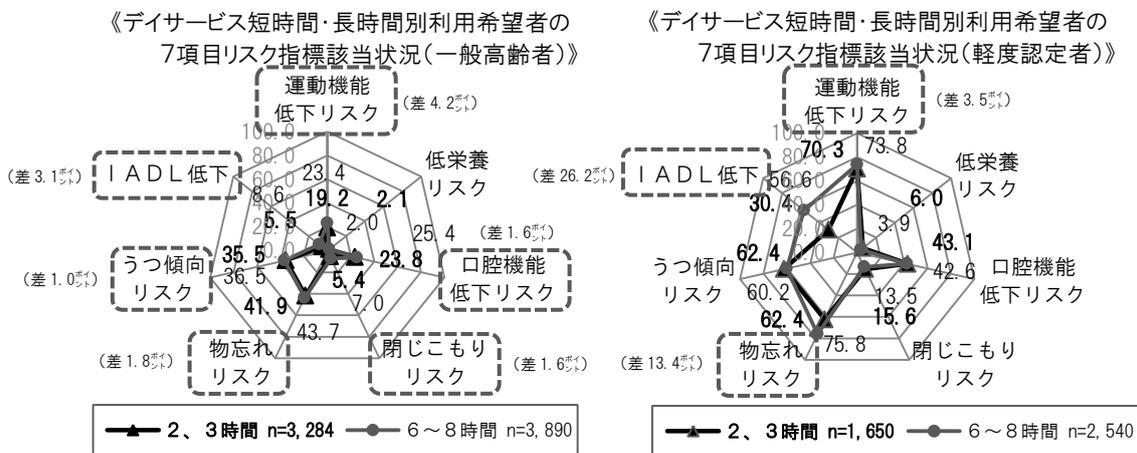


【掘り下げ分析】 デイサービス（通所サービス）の利用希望者の状況

- 地域の人との付き合い方を短時間・長時間の利用希望別にみると、一般高齢者では『2、3時間のサービス希望』、『6～8時間のサービス希望』でほとんど差はない状況です。  
一方、軽度認定者では「付き合いはほとんどない」と回答した方は、『2、3時間のサービス希望』(22.4%)より『6～8時間のサービス希望』(34.8%)で12.4ポイント高くなっています。

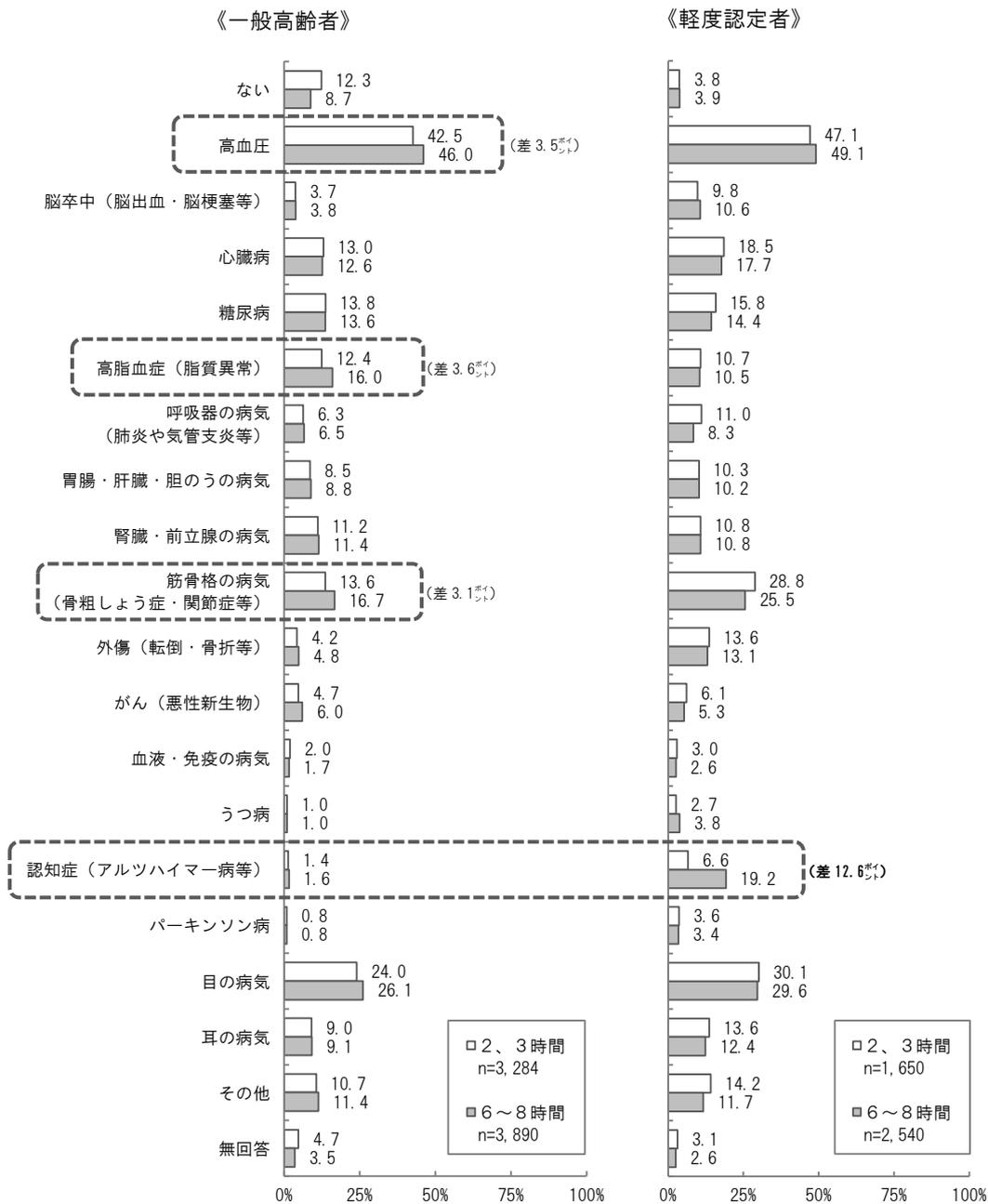


- 7項目リスク指標において短時間・長時間の利用希望割合の差をみると、一般高齢者では『6～8時間のサービス希望』で「低栄養リスク」を除く6項目の該当割合が『2、3時間のサービス希望』より高く、その差は「運動機能低下リスク」で4.2ポイント、「IADL低下」で3.1ポイント、「物忘れリスク」で1.8ポイント、「口腔機能低下リスク」「閉じこもりリスク」で各1.6ポイント、「うつ傾向リスク」で1.0ポイントとなっています。  
一方、軽度認定者では該当割合が「IADL低下」「物忘れリスク」「運動機能低下リスク」の該当割合が『2、3時間のサービス希望』より『6～8時間のサービス希望』で高く、その差は「IADL低下」で26.2ポイント、「物忘れリスク」で13.4ポイント、「運動機能低下リスク」で3.5ポイントとなっています。



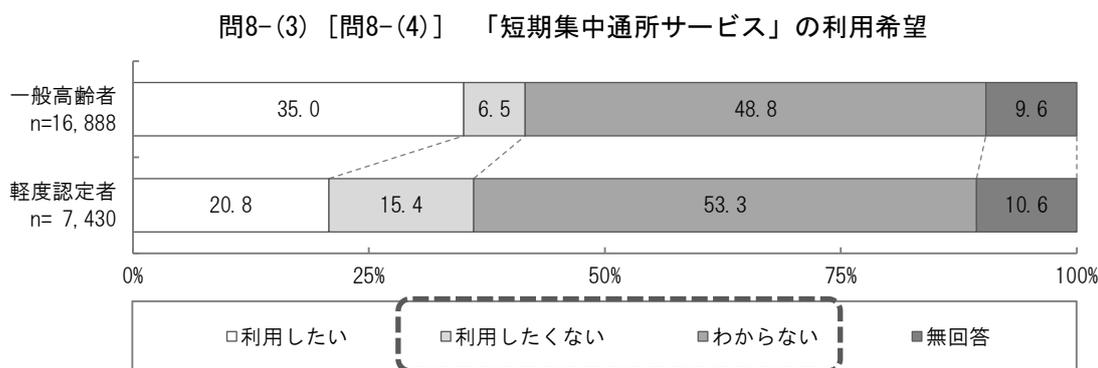
【掘り下げ分析】 デイサービス（通所サービス）の利用希望者の疾病状況

●一般高齢者のデイサービス利用希望者の疾病状況をみると、『6～8時間のサービス希望』で「心臓病」「糖尿病」「血液・免疫の病気」「うつ病」「パーキンソン病」以外の疾病の罹患割合が『2、3時間のサービス希望』より高くなっています。特に「高脂血症（脂質異常）」（差 3.6<sup>ポイント</sup>）、「高血圧」（差 3.5<sup>ポイント</sup>）、「筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）」（差 3.1<sup>ポイント</sup>）でその差が大きくなっています。一方、軽度認定者では『2、3時間のサービス希望』と『6～8時間のサービス希望』で、各疾病の罹患割合に大きな差はない状況ですが、「認知症（アルツハイマー病等）」では『2、3時間のサービス希望』（6.6%）の罹患割合が『6～8時間のサービス希望』（19.2%）を 12.6<sup>ポイント</sup>上回っています。

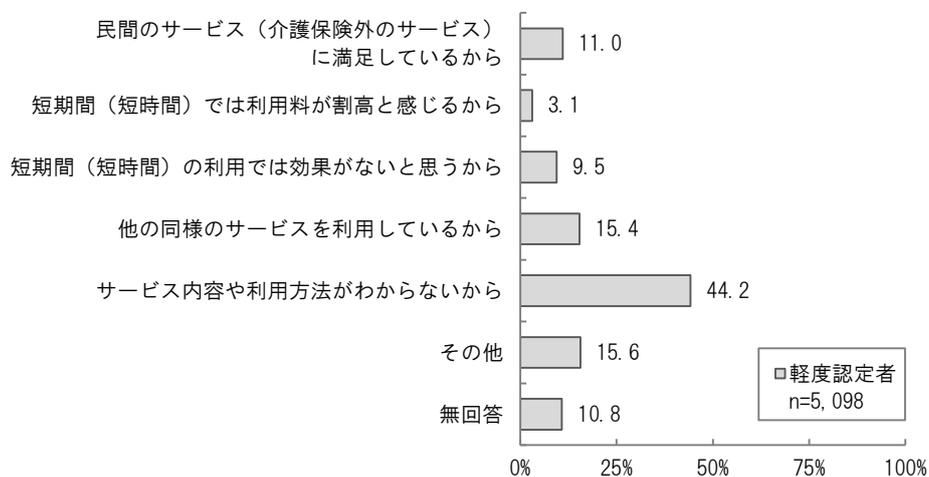


- 短期集中通所サービス<sup>※4</sup>の利用希望について、一般高齢者は「利用したい」が35.0%、「利用したくない」が6.5%となっています。
- 一方、軽度認定者は「利用したい」が20.8%、「利用したくない」が15.4%となっています。
- 軽度認定者において短期集中通所サービスを利用したくない、わからないと回答した理由は、「サービス内容や利用方法がわからないから」(44.2%)が最も高く、次いで「他の同様のサービスを利用しているから」(15.4%)、「民間のサービス(介護保険外のサービス)に満足しているから」(11.0%)となっています。

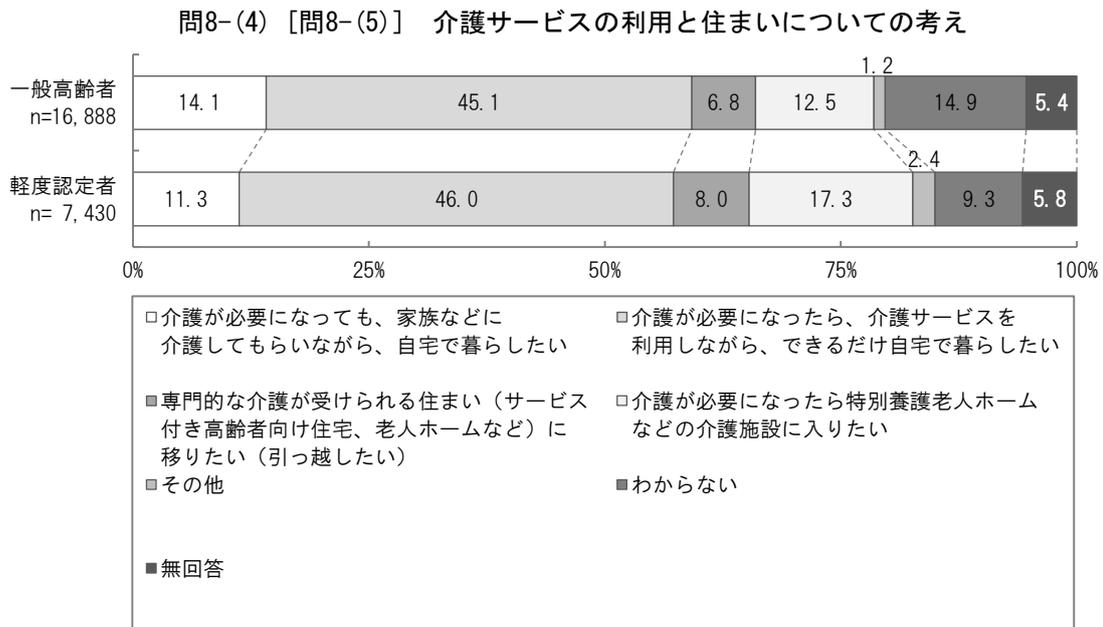
※4「短期集中通所サービス」は、短期間(4カ月間)集中的に、リハビリ専門職の指導のもと2時間程度の自立支援メニューを行うサービスです。また、月1回程度、リハビリ専門職から生活のアドバイスも受けられます。



[問8-(4).①] 「短期集中通所サービス」を利用しない理由



- 介護サービスの利用と住まいについての考えをみると、一般高齢者は「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」（45.1%）が最も高く、次いで「介護が必要になっても、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」（14.1%）となっています。
- 一方、軽度認定者は「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」（46.0%）が最も高く、「介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」（17.3%）となっています。



【掘り下げ分析】家族形態別の在宅生活の意向（一般高齢者）

- 一般高齢者の介護サービスの利用と住まいについての考えを家族形態別にみると、いずれも「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」と考えている割合が最も高くなっています。また、1人暮らしでは、「専門的な介護が受けられる住まい（サービス付き高齢者向け住宅、老人ホームなど）に移りたい（引っ越したい）」（11.3%）が他の家族形態の方に比べ高くなっています。

単位：%

在宅生活の意向	家族形態 1人暮らし	夫婦2人暮らし		息子・娘との 2世帯	その他世帯
		配偶者が 65歳以上	配偶者が 64歳以下		
介護が必要になっても、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい	6.8	14.3	20.7	19.2	15.4
介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい	40.5	47.8	39.1	44.8	45.1
専門的な介護が受けられる住まい（サービス付き高齢者向け住宅、老人ホームなど）に移りたい（引っ越したい）	11.3	7.0	2.9	4.7	4.4
介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	15.5	12.1	8.7	10.6	13.0

※各調査で家族形態ごとにみた在宅生活の意向の割合です。

※回答選択肢を抽出して記載しているため、合計しても100%にはなりません。

## 【掘り下げ分析】居住環境別にみた在宅生活の意向（一般高齢者）

- 一般高齢者の介護サービスの利用と住まいについての考えを居住環境別にみると、いずれの居住環境でも「介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」と考えている割合が最も高くなっています。一方で、民間賃貸住宅（集合住宅）の方は、「専門的な介護が受けられる住まい（サービス付き高齢者向け住宅、老人ホームなど）に移りたい（引っ越したい）」（19.7%）が他の居住環境の方に比べ高くなっています。

単位：%

居住環境 在宅生活の意向	持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	公営賃貸 住宅	民間賃貸 住宅 (一戸建て)	民間賃貸 住宅 (集合住宅)	借家
介護が必要になっても、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい	12.1	12.7	9.8	6.5	4.5	7.8
介護が必要になったら、介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい	49.6	42.6	36.6	44.6	28.4	36.1
専門的な介護が受けられる住まい（サービス付き高齢者向け住宅、老人ホームなど）に移りたい（引っ越したい）	6.6	10.5	8.2	5.4	19.7	11.7
介護が必要になったら特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	16.3	19.8	23.5	20.7	23.6	19.5

※各調査で居住環境ごとにみた在宅生活の意向の割合です。

※回答選択肢を抽出して記載しているため、合計しても100%にはなりません。